

中土佐町地域福祉計画策定委員会 かわら版

「安心してだれもが 自分らしく暮らすことができるまち」

第1号：平成28年8月発行

中土佐町の地域福祉計画について

中土佐町では、「安心してだれもが 自分らしく暮らすことができるまち」を目指し、平成24年3月に初めて「地域福祉計画・地域福祉活動計画（平成24～28年度）」を策定しました。

今年度は、第2期計画（平成29～33年度）に向けた地域福祉計画策定委員会を全4回開催する予定です。その策定経過をお知らせするために、「かわら版」を順次発行することになりました。

計画策定では、地域福祉計画策定委員会での協議とともに、幅広い世代や地域性に応じた内容を盛り込むためのテーマ別ワーキンググループや地域別推進委員会を活かし、より一層皆様の意見等を反映しながら検討を行います。



新たな地域福祉計画の検討がはじまりました！

平成28年6月20日に第1回策定委員会が開催されました。中土佐町の第1期計画の到達点として、健康福祉課及び社協からの説明や委員による各地域の取組状況報告などが行われ、様々な意見交換が行われました。

裏面に続きます



第1回中土佐町地域福祉計画策定委員会（平成28年6月20日）の内容

あったかふれあいセンターからの報告

まんまる 「まんまる」運営委員会

住民運営委員が積極的にあったかふれあいセンターの運営に関わることで、地域とのパイプ役となり、地域のために何が必要かを一緒に考え活動するリーダー的役割を担い始めています。それに伴って、様々な参加者も増えてきました。今後は「地域ふくし活動推進委員」として、久礼地域全体を視野に入れて取り組もうとしています。



寄り家 小地域ケア会議

矢井賀を含めた5地区で、民生委員や地域住民、専門職が集まり、住宅マップ（4地区）や「つながる安心カード」（1地区）を使って、日頃の見守りや困りごとの早期発見、地域の課題解決に向けた取り組みにつながる会議を重ねています。見守り訪問組織「おとなりふれあい会」や「困りごとお助けカード」など、新たな活動が生まれています。



ほのほの大野見 つながる安心カード

緊急時・災害時に備えて、かかりつけの病院や服薬、緊急連絡先を記入する「つながる安心カード」の普及を進め、地域の見守りや支え合い、つながりづくりの再構築を目指しています。関連機関等と適切に情報共有をしながら更新作業にも取り組み、訪問時に生活状況の確認や困りごとの聞き取りを行って、ニーズの早期発見と対応につなげています。



地域福祉の活動状況についてご報告いただきました

大野見地域 ～正岡委員～

住民が昔、井戸端会議や川談義をしていたような場所や機会が少なくなるなかで、「ほのほの大野見」がそれらの役割を担う新たな場として、高齢者だけではなく幅広く認知され地域に浸透してきているとの報告がありました。行政や社協への今後の期待についても意見があげられました。

上/加江地域 ～木村委員～

マップ作業などの継続により住民の気づきが生まれ、気かけ合う意識が強くなり新たな活動につながったこと、「寄り家」の地域福祉バザーなどでも上ノ加江と矢井賀の交流が生まれていること、権利擁護研修「劇」への楽しい取り組みなど多様な活動について報告がありました。

矢井賀地域 ～三宮委員～

小矢井賀ではほとんどの住民が「つながる安心カード」を作成したこと、小矢井賀地区の運動会の開催（避難路を使ったゲームも実施）、月1回の「寄り家」のサテライトが住民の新たな集いの場や地域の困りごとを話し合う場にもなっていることなどについて報告がありました。

久礼地域 ～山本委員～

久礼地域では防災への関心が高く、「まんまる」と組んで定期的実施している防災訓練について報告がありました。また、独居高齢者が増えているため見守りが課題であり、ケアマネジャーや地域包括支援センターとの連携や「まんまる」の相談機能が活用されていることも話題にされました。

⇒あったかふれあいセンターが地域福祉の拠点として、住民の活動や暮らしを支えています

様々なご意見をいただきました

- あったかふれあいセンターの足場は固まってきている。次期計画では活かし方が重要。若い人の参加が少ないので、今後は長期間にわたって参加してもらうことが大事である。
- あったかふれあいセンターは福祉だけではなく、地域活性化、担い手育成まで行っている。今後は高齢者の交通の課題もあるので、商工関係者との関係も重要になる。
- 1つのあったかふれあいセンターの良い取組みが他の地域にも広がっているの、3つ運営しているメリットが出ている。マップ作りの話もあったが、顔の見える関係や信頼ができつつあり、地域づくりが進んでいると感じた。
- 未就労者の方を就労や社会参加につなげることは重要である。
- 養育困難家庭は増えている。今後は発達障害の問題、不登校の問題とも重なってくる など

